

〔学 会〕

東京女子医科大学学会 第41回総会

一般演説の追加・質問・応答要旨

昭和50年9月27日(土)

於 東京女子医科大学本部講堂

(総会演説の抄録は本誌第45巻7号に掲載した)

1. ヒト染色体の新しい分染法と分染パターンの変化

(第二解剖) 神田 尚俊

質問 菊地 鏡二(第二生理) Ba(OH)₂ と HCl の R および C band の染色性に対する効果を述べられましたが、この染色性に関する機序に対してどのような作用をするのでしょうか。

応答 神田 尚俊(第二解剖) 染色体のバンドングの機序については、現在のところ十分に明らかになっていませんが、一般に酸やアルカリで処理をすると、染色体蛋白の一部が溶出することが知られ、またアルカリ処理ではしばしば DNA が single-strand から double-strand になると考えられており、これがバンド形成の一因を成していると思われます。

17. 東京女子医大麻酔科における針麻酔の経験

(麻酔科) ○太田 一朝・他4名

(耳鼻咽喉科) 赤坂 和美・他1名

質問 扇内 秀樹(口腔外科) 1) 局麻剤併用例は何例か。また局麻剤の使用量はどれくらいか。

2) ハリ麻酔では軟組織より骨の方が効果が少ないといわれているが如何でしょうか。

3) 体動時、時に上下顎骨のバイプレッションを経験された症例がありましたか。

応答 太田 一朝(麻酔科) 1) 全く局麻剤剤を使用しなかつた症例は4例です。少量併用し、good と判定した2例は、それぞれ8ml, 3ml ですが、痛みの場所が局限していますので、もつと少なくとも充分であつたと思います。

3) ご質問のような下顎の動きには気づきませんでした。

応答 代田 文彦(麻酔科) 2) われわれの経験からすると、軟部組織よりも骨膜・骨の方が疼痛閾値の上昇が良いように思われる。Osteoma(胛骨)の手術で骨膜・骨の操作で全く痛みがなかつた。

質問 河西 一秀(口腔外科) 痛みの出る場所は決つていますか。

応答 太田 一朝(麻酔科) 限局した痛みの場所とは N. infraorbitalis を直接刺激した時、上顎洞内搔爬時に後下壁、上顎洞に対孔を開けるときに下鼻道側の粘膜とこの3カ所が共通した場所です。

21. 家族内発生を示した Recklinghausen 氏病の1例

(第二病院皮膚科) 安田 和正

質問 肥田野 信(皮膚科) 母の知能は如何?

応答 安田 和生(第二病院皮膚科) WISC知能診断テストによりIQを測定し、これは小児科に依頼したもので、本人以外は、はつきりした値はわかりませんが、私個人としては患者と同程度ではないかと思われます。

22. 乳癌に対するわれわれの考え方

(第二病院外科) ○山崎 靖夫・他8名

質問 肥田野 信(皮膚科) 1) 化学療法の開始時期は?

2) その終了時期は?

応答 山崎 靖夫(第二病院外科) 1) 大体5通りぐらゐの投与方式を試みており、開始時期は術後すぐの場合もあるし、約1週~10日後から、始める場合が多い。

2) stage の進んだものに対しては、外来にて長期に chemotherapy を行ない管理している。

24. 定期検診受診者における、HBs-Ag, および Anti-

HBs 陽性例の検討

(成人医学センター) ○前田 淳・他7名

(消化器内科) 本池 洋二・他8名

質問 肥田野 信 (皮膚科) 1) HBs 抗体保有者で肝機能異常なき者は、いかに指導しておられるか?

2) HBs 抗体保有者を医療関係者が扱う場合の注意は?

応答 前田 淳 (成人医学センター) 1) 日常生活に対しては、通常の肝炎患者の場合に準じている。

2) 特に配慮はしておらず、抗原陽性者に対しては感染性という点より注意が必要と思われる。

25. 各種ウイルスに対する抗体の検索とウイルス病の血清学的診断について

(中検血清部) 長田 富香

追加 肥田野 信 (皮膚科) 風疹の臨床診断と、ペア血清における抗体の上昇率は、よく一致していた。

28. 先天性心疾患児の運動負荷心電図の経時的観察について

(第二病院小児科) ○鈴木 淳子・他8名

質問 渋谷 実 (成人医学センター) 先天性心疾患の患者の軽度、中等症はN.Y.H.Aの分類で殆ど、I度程度なのですか?

運動負荷で心指数に変わりなかつたのは、心機能が正常に保たれているからなのですね。

応答 鈴木 淳子 (第二病院小児科) EKG, X-P, 心カテ, データによる重症度判定ですが、軽症、中等症では、NHAで日常生活に、ほとんど支障をきたさない程度です。

29. 異種心臓移植の研究、特に **Concordant, discordant heterograft** の識別と免疫抑制の可能性について

(心研外科) ○千葉 智世・他6名

質問 榊原 宣 (消化器外科) ヒトにもつとも近いものはどのような動物か。

応答 千葉 智世 (心研外科) ヒトにとつて concordant donor は、生物分類上、近いもの、すなわち霊長類動物の中にある可能性が高いですが、はじめに示しましたスライドのように、マウスへのウサギ graft のように分類上かなり離れたものの中にも 適合のよい donor のありうる可能性はあると思います。

質問 倉持 恒雄 (人工腎センター) ヒトの場合、hyperacute Rejection の起こる例では、Recipient の serum に donor の lymphocyte に対する specific antibody が存在するときに約80%にみられますが、先生の動物実験

においては、この関係は、いかがですか。

応答 千葉 智世 (心研外科) donor リンパ球に対する抗体は cytotoxicity test でしらべましたが、移植心への反応と必ずしも一致しませんでした。

私達がしらべている抗体は、自然抗体で抗原刺激により生じた抗体と必ずしも一致しないかと考えます。

30. 腎移植15例の経験

(人工腎臓センター) ○須田 昭夫・他1名

質問 榊原 宣 (消化器外科) poor match であつて移植を中止した症例はどのくらいあつたか。

応答 須田 昭夫 (人工腎センター) 直接中止したのは1例です。

31. 両側腎皮質壊死の3剖検例

(第二病理) ○矢島三穂子・他1名

(消化器外科) 吉田 操・他2名

質問 須田 昭夫 (人工腎センター) 3例の中に Schwartzman 型組織反応と関連づけられる敗血症などの感染症はございませんでしたでしょうか。

応答 矢島三穂子 (第二病理) 第3例で、胸壁、肺、腎に化膿菌の感染があつたが、これは術後合併症である。

討論 榊原 宣 (消化器外科) このような症例に血液透析をやつても無駄か。

応答 須田 昭夫 (人工腎センター) 効果のあるものと、ないものにはつきり分れる。一般的に言えばどんどん行なうべきである。

追加 矢島三穂子 (第二病理) この3例のあとに加わつた第4例は、2カ月血液透析を行つたあと死亡したものであるが、壊死に陥つていたと思われる部分は皮質に沿つた帯状の瘢痕となつており、残つた腎組織は修復されてはいるが、長期の生存は困難のようである。

33. 胃 Xanthoma 症例について

(内科) ○竹内富美子・他2名

質問 後町 暁子 (消化器内科) 1) 腎キサントームと萎縮性胃炎との関係は? 2) 胃キサントームと腸上皮化生との関係は?

応答 竹内富美子 (内科) 1) 胃キサントームは、これらの症例の大多数に萎縮性胃炎を認めました。この萎縮性胃炎には第一度、第二度、第三度などの分類があります。

2) 胃キサントームと腸上皮化生との関係については、今後追求したいと思います。

質問 草川 三治 (第二病院小児科) 胃キサントーム